

上尾歴史散歩

233 上尾の古い地名をこう

「横須賀藩士が通った原市往還を歩く」 ～原市～

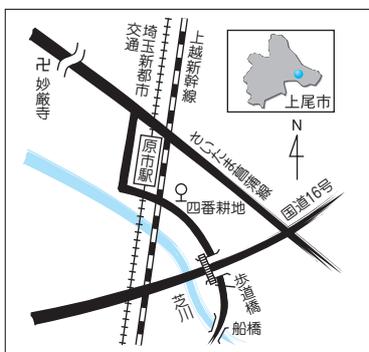
「ぐるっとくん」を原市の「四番耕地」で下車し、さいたま市境の「船橋」を目指して南下する。バス停から百五十メートルも歩くと国道16号となるが、歩道橋で横断して三百メートルほど進むと、芝川に架かる「船橋」となる。この橋は明治初年の資料によると原市村と今羽村の境界で、「長さ一間半・幅一間」の石造の橋と記され、当時は芝川という川の名称はなく、単に「悪水堀」と記されているのみである(『武蔵国郡村誌』)。

船橋から原市村に向かう道路を原市村の人たちは「大宮道」と呼んでいるが、明治初年の地図には「羽生道」と記載されているので、浦和・大宮宿方面から羽生市、騎西町(現加須市)、菖蒲町(現久喜市)への主要道であったとみられる。この道路は『広報あげお』



妙厳寺にある西尾家第六代忠需の墓石(左)

る。西尾家の菩提寺は横須賀の龍眠寺なので、遺骸は閏六月八日に江戸出棺となり、同月十四日龍眠寺着棺、十八日から二十一日まで葬儀・法会が挙行されている。ところが妙厳寺は藩祖西尾吉次が葬られており、龍眠寺同様の菩提寺でもあるので忠需の墓所も建立されることになる。藩主の名代に用人の谷源兵衛、法事係りに木村安左衛門らが任命され、「五・七」の法会を挙行することで多くの家臣たちが派遣されている。谷源兵衛たちは七月三日夜九時(午前零時ごろ)江戸出立、七月四日昼八時(午後二時ごろ)原市村に到着している。この時、記録には「大宮宿を打過、田舎道へ入り」としか記されていないが、家臣団一行は「船橋」を渡ったものと推定される(前掲書・『迅速測図』)。



市はなし(話)」。家臣団一行は町の入り口(現埼玉新都市交通(ニューシヤトル)原市駅付近)で行列を整えるが、ここでは名主の矢部源三郎らが麻袴姿で出迎え、町中を先導して妙厳寺へ向かう。この間行列は約百メートルの距離を進み、寺の大門で住持に迎えられる。この日はこれより藩祖らの墓所への参拝、陣屋跡・原市沼の見学、御速夜の行事、藩祖奉納の槍・鞍などの拝観、名主・住持らとの会食と目まぐるしく行事をこなしている。藩主墓石の建立は七月五日午前中に終了するが、この日は住民の参拝もあり寺院は終日ごった返している。藩士たちは七月六日朝六時出立で、江戸屋敷に帰っている(前掲書)。(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

6月16日、「ぐるっとくん」が利用者〇〇〇万人を達成しました。

(ヒントは9ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、8月20日(金)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールDL: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は9月号のこのコーナーで。前号の答えは「国勢」でした。ご応募ありがとうございました(応募者32人)。

市の人口・世帯

(平成22年7月1日現在)

22万7,079人

男/11万3,571人

女/11万3,508人

※前月より50人増。

9万1,879世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。